

筑波大学大学院博士課程

システム情報工学研究科特定課題研究報告書

看護行動の組織心理学的研究：精神健康、
継続学習、及び利他行動に繋がる心理的
プロセスについて

許 蕊 修士（ビジネス）

金 世峰 修士（ビジネス）

陳 卓 修士（ビジネス）

範 泓迪 修士（ビジネス）

（経営・政策科学専攻）

指導教員 渡邊 真一郎

2015年3月

筑波大学大学院博士課程

システム情報工学研究科特定課題研究報告書

看護行動の組織心理学的研究：精神健康、
継続学習、及び利他行動に繋がる心理的
プロセスについて

201320581	許 蕊	修士（ビジネス）
201320583	金 世峰	修士（ビジネス）
201320598	陳 卓	修士（ビジネス）
201320600	範 泓迪	修士（ビジネス）

（経営・政策科学専攻）

指導教員 渡邊 真一郎

2015年3月

報告書要旨

日本では、急速に進む高齢化や看護師不足の背景に、高品質かつ効率的な看護が求められる。本報告書は、国内外組織心理学的分野で蓄積されてきた研究成果を参照し、その課題に対する解決策を提案することを目的とする。高品質かつ効率的な看護に向け、看護スキル、チーム連携、ストレス管理に目をむけ、継続学習、利他行動、バーンアウト、抑うつ、及びこれらに影響を与える要素に関する研究である。筑波大学病院看護部で働く看護職員から得られたデータ（N=205）を用いて仮説モデルを検証した。最後に、将来の課題や経営示唆について議論した。

Abstract

Under the background of population aging and looming shortage of nurses, the caring service, in Japan, is expected to be both high quality and efficient. In order to provide solutions on this issue, this report reviewed numbers of past studies on organizational behavior field and built four models related to continuous learning, altruistic behavior, burnout and depression. We examined the model by using the data from nurses in Tsukuba University Hospital (N=205). At last, some results gained by this report might be helpful on future research and nursing administration.

目次

第一章 序章.....	1
1.1 看護を取り巻く状況.....	2
1.2 本報告書における個別研究の構成.....	2
1.3 方法概要.....	4
1.3.1 調査方法.....	4
1.3.2 調査期間.....	4
1.3.3 データの概要.....	4
第二章 キャリアコミットメントが継続学習に及ぼす影響について.....	5
2.1 はじめに.....	7
2.2 先行研究レビュー及び仮説.....	7
2.2.1 変数定義.....	7
2.2.2 既存研究と仮説.....	8
2.3 研究方法.....	10
2.3.1 データ.....	10
2.3.2 尺度.....	10
2.3.3 コントロール変数.....	11
2.3.4 分析方法.....	12
2.4 分析結果.....	13
2.4.1 記述統計量と相関係数.....	13
2.4.2 重回帰分析結果.....	15
2.5 考察.....	17
2.5.1 ディスカッション及び理論的貢献.....	17
2.5.2 本研究からの経営的示唆.....	17
2.5.3 今後の研究課題.....	17
参考文献.....	18
第三章 情動知能、感情労働、及び利他行動の関係.....	20
3.1 背景と目的.....	22
3.2 既存研究と仮説.....	23
3.2.1 情動知能と利他行動.....	23
3.2.2 情動知能と感情労働.....	23
3.2.3 感情労働と利他行動.....	23
3.2.4 仮説モデル.....	24

3.3	研究方法.....	24
3.3.1	データ.....	24
3.3.2	尺度.....	24
3.4	調査結果.....	26
3.4.1	記述統計と相関係数.....	26
3.4.2	重回帰分析結果.....	28
3.5	考察.....	30
3.5.1	ディスカッション.....	30
3.5.2	結論.....	31
3.5.3	理論的貢献及び看護の質向上に向けた示唆.....	31
3.5.4	今後の課題.....	32
	参考文献.....	32
第四章	看護師のバーンアウトに関する研究: 労働負荷、バーンアウト、および情動的コミットメントの関係について.....	34
4.1	研究背景.....	36
4.2	先行研究.....	36
4.2.2	労働負荷とバーンアウトの関係について.....	36
4.2.1	バーンアウト三次元の関係について.....	37
4.2.3	バーンアウトと情動的コミットメントの関係について.....	37
4.3	研究方法.....	38
4.3.1	データ.....	38
4.3.2	尺度.....	38
4.3.3	分析方法.....	40
4.4	結果.....	40
4.4.1	記述統計と相関係数.....	40
4.4.2	直接効果モデル分析.....	42
4.4.3	間接効果モデル分析.....	42
4.5	考察.....	44
4.5.1	ディスカッション.....	44
4.5.2	経営示唆.....	44
4.5.3	今後の課題.....	44
	参考文献.....	45
第五章	患者の健康状態、看護師の性格及びストレス対処行動が看護師のうつ病に及ぼす影響.....	46

5.1	研究背景と目的.....	48
5.1.1	研究背景.....	48
5.1.2	研究目的.....	49
5.2	既存研究レビューと仮説.....	49
5.2.1	各変数の定義.....	49
5.2.2	既存研究と仮説立案.....	50
5.3	研究方法.....	52
5.3.1	データ.....	52
5.3.2	尺度.....	52
5.3.3	コントロール変数.....	53
5.3.4	分析方法.....	54
5.4	分析結果.....	54
5.4.1	記述統計量と相関係数.....	54
5.4.2	重回帰分析結果.....	56
5.5	ディスカッション.....	58
5.5.1	結論と経営示唆.....	58
5.5.2	今後の課題.....	59
	参考文献.....	59
第六章	2014年度看護行動研究報告書の総括.....	62
6.1	各研究の総括.....	63
6.1.1	看護スキルを向上に関する研究.....	63
6.1.2	チームワーク向上に関する研究.....	63
6.1.3	ストレス管理に関する研究.....	64
6.2	結論.....	64
6.2.1	各研究のまとめ.....	64
6.2.2	分析結果.....	64
6.2.3	ディスカッション.....	66
	謝辞.....	68
	添付資料.....	69

図一覧

図 1-1	高品質かつ効率的な看護に向けて.....	3
図 2-1	仮説モデル.....	10
図 2-2	コントロール変数を含めた仮説モデル.....	12
図 2-3	直接効果モデルの分析結果.....	15
図 2-4	間接効果モデルの分析結果.....	16
図 3-1	情動知能、感情労働、及び利他行動の仮説モデル.....	24
図 3-2	コントロール変数を加えた後の因果モデル.....	26
図 3-3	直接的効果の解析結果パス図.....	28
図 3-4	間接効果の解析結果パス.....	30
図 4-1	労働負荷 - バーンアウト-情動コミットメントの間の因果モデル.....	38
図 4-2	コントロール変数を加えた仮説モデル.....	40
図 4-3	直接モデル分析結果.....	42
図 4-4	間接効果分析結果.....	43
図 5-1	コントロール変数を加えた仮説モデル.....	54
図 5-2	直接効果モデルの分析結果.....	56
図 5-3	交互作用効果モデルの分析結果.....	57
図 5-4	間接効果モデルの分析結果.....	58
図 6-1	直接モデル分析結果.....	65
図 6-2	間接モデル分析結果.....	66

表一覧

表 2-1	記述統計量と相関係数.....	14
表 3-1	記述統計と相関係数.....	27
表 3-2	直接的効果の重回帰分析.....	28
表 3-3	表層演技を被説明変量とした重回帰分析.....	29
表 3-4	深層演技を被説明変量とした重回帰分析.....	29
表 3-5	仲介変数を含めた場合の重回帰分析.....	29
表 4-1	記述統計量及び相関係数.....	41
表 5-1	記述統計量と相関係数.....	55
表 6-1	記述統計量と相関係数.....	65